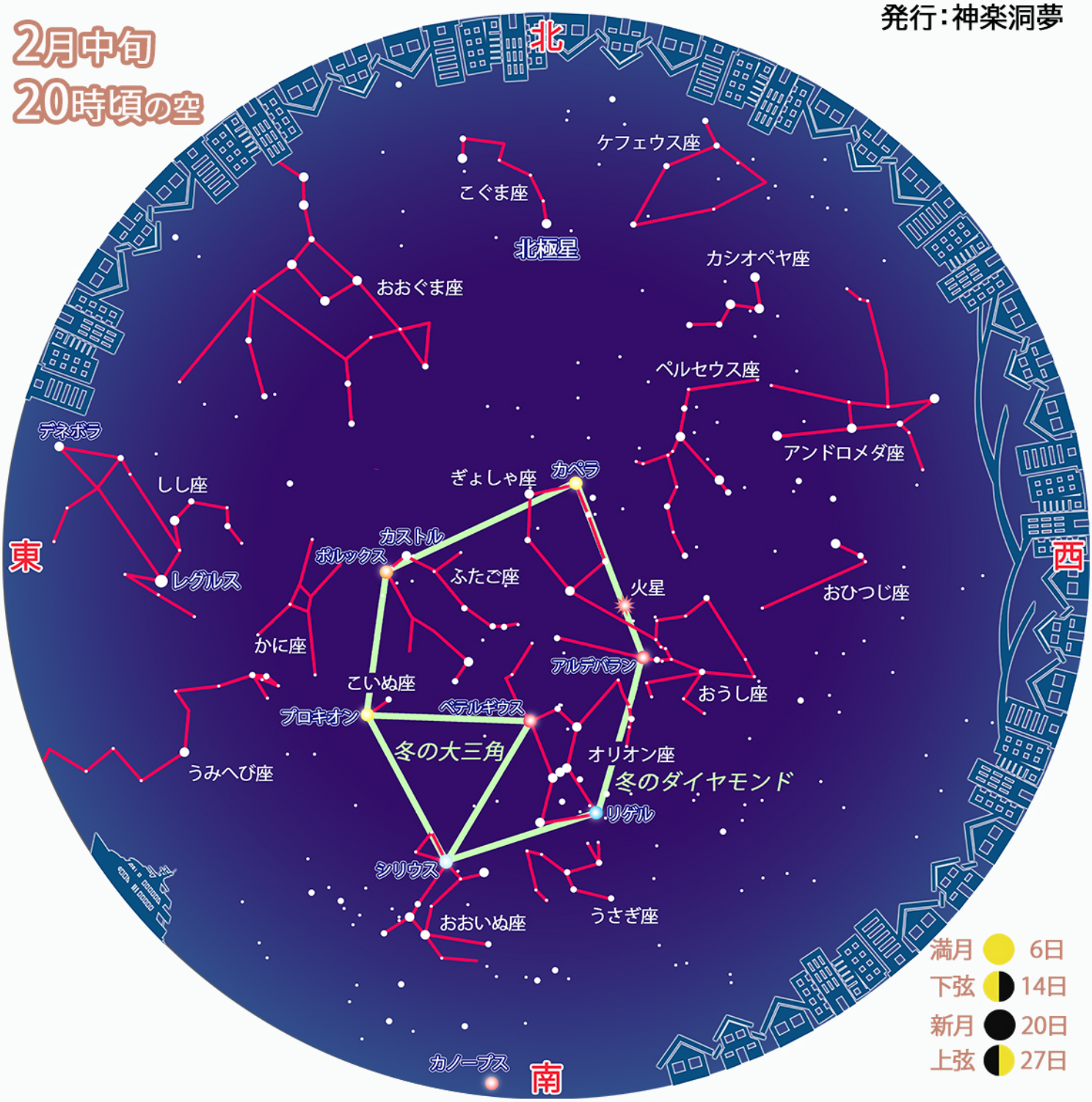
神楽通信 No.84

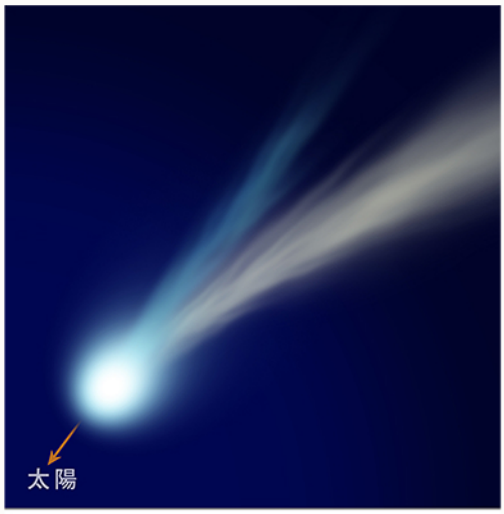
2023年 2月号

発行：神楽洞夢



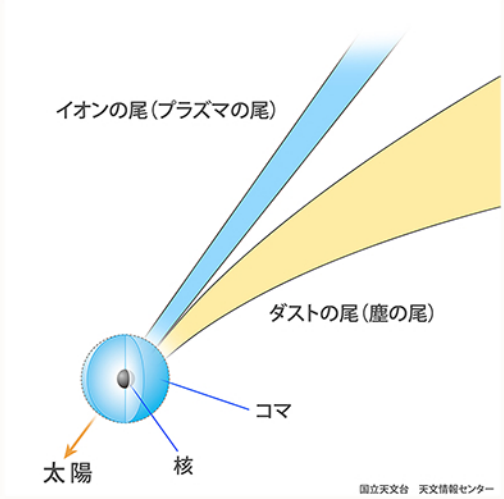
まだ寒さの厳しい時期ですが、4日には立春を迎え、梅の花が咲き始めるころになりました。星空を見上げてみると、冬の星座が今が見ごろで、東からはしし座やうみへび座など、春の星座が昇ってきています。南の空の低いところにはシリウスに次いで全天で二番目に明るいカノープスが輝いています。地平線に近いため、実際の明るさよりもやや暗めで赤っぽく見えます。南の空が開けたところで観察にチャレンジしてみましょう。

冬空を走り抜けるZTF彗星を見よう



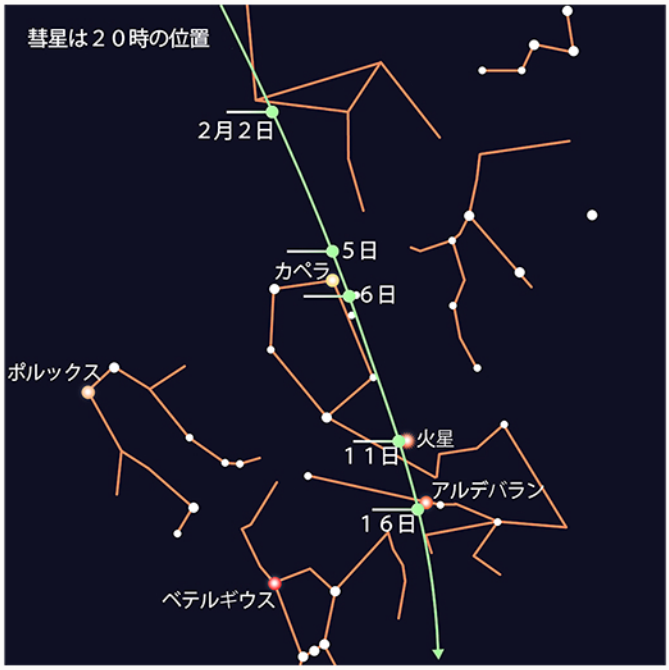
ZTF(ズィーティーエフ)彗星は、2022年3月に発見された新しい彗星です。今年の1月12日に近日点を通過し、今月の初旬にかけて地球までおよそ0.3天文単位にまで近づきます。(1天文単位＝およそ1億5000万キロメートル)

彗星のつくりは大きく「コマ」と「尾」に分かれます。
「コマ」は観測した際にぼやっと輝いて見える部分で、その中心には「核」と呼ばれる直径数百メートルから数キロメートルほどの氷や塵の塊があります。
彗星が太陽に近づくとその熱で「核」の表面の氷などが昇華し、それに引きずられてガスや塵も放出されます。
こうして放出されたガスや塵が太陽光を散乱することで見えるのが「コマ」の部分です。
そのような「コマ」から伸びて見えるのが、彗星の見どころのひとつでもある「尾」です。「尾」は大きく2種類に分けられます。
ひとつは「イオンの尾(プラズマの尾)」で、「コマ」のガスが太陽風に流されて、太陽とは反対方向に伸びます。
もうひとつは「核」から放出された塵が太陽光を受けてできる「ダストの尾(塵の尾)」で、さまざまなサイズの塵が放出され続けることで、「核」から伸びた幅の広い尾をつくります。



画像:国立天文台 天文情報センター

ZTF彗星は北の空から南下しながら、５日から６日にはぎょしゃ座のカペラの隣を通過し、１１日にはおうし座にある火星のすぐ近くに見えます。そして１６日にはアルデバランの近くを通過していきます。明るさは最大5等級ほどと予想されており、観察には双眼鏡が必要になります。
この機会にぜひ観察にチャレンジして、冬の賑やかな星々と彗星の競演を楽しんでみてはいかがでしょうか。



Okasan Digital Dome Theater
神楽洞夢
KAGURA DOME
〒514-0032 三重県津市中央5-20　岡三証券グループ津ビル4階
http://kagura-dome.jp　TEL. 059-221-3121　FAX.059-226-1565